

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したことになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

〔取り組みの事実〕

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

〔取り組んでいきたい項目〕

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

〔取り組んでいきたい内容〕

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

〔特に力を入れている点・アピールしたい点〕（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族＝家族に限定しています。

運営者＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（No.1からNo.87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（No.88からNo.100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	医療法人 萌愛会 グループホーム 花
（ユニット名）	ラベンダー
所在地 （県・市町村名）	長崎県西海市西彼町伊ノ浦郷207－1 209－1
記入者名 （管理者）	山口 清子
記入日	平成19年 8月 23日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	*地域密着型サービスの意義を全員で確認し、地域生活の継続を支える為の支援を理念に取り入れている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	*ホームの基本方針及び理念を玄関に掲げ、ミーティング時に復唱している。	○ *全職員が理念、基本方針を名札の裏に携帯し毎朝のミーティング時に復唱しケアに生かして生きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	*パンフレット及び2ヶ月に一度発行の「花だより」に掲載している。 *運営推進会議のメンバー及び家族会の会合時に地域と共に歩んで行きたい事を伝えている。	○ *今後地域へもホームの理念、方針を明確に伝え協力を得て行きたい。 *近隣の商店で買い物をしたり店員さんとも気軽に会話し、地域の方に事業所を知ってもらうように努力をしている。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	*ホームの前を通られる方や、犬の散歩中の方に声をかけたり、畑仕事の様子を見学しながら世間話をしたりしている。	○ *運営推進会議のメンバーである区長の協力で少しずつ地域へ入って行く機会が増えている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	*保育園、小学校の運動会に参加をしている。 *今年度より近隣のグループホームと定期的に交流を開始している。(お茶、カラオケ、ゲーム、生け花等)	○ *区長を通じて自治会、老人会への参加も具体的な関わりが始まる計画である。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	*地域住民を対象に介護教室を開き認知症の理解、接し方について勉強会を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	*サービス評価の意義、目的を全員に伝え各自が評価に取り組み、実施していること及び改善策について検討している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	*複数の事業所で運営推進会議を行っている。 *単独の会議(10月、1月、4月、7月) *家族会を開催し家族の方からも意見を募っている。	○	*会議の中で利用者及び家族、近隣の代表者等より意見を吸い上げ運営に生かしていきたい。 *家族会で出された意見はできる限り生かして行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	*社会福祉協議会を中心とした複数の事業所と行政が集まる福祉施設連絡協議会に参加をしている。 *社会福祉協議会主催の研修会講師を施設の常務が行うことに決定している。(本年度9月18日)	○	*市主催の地域密着型サービス事業所連絡協議会に参加しているので市と共にサービスの質の向上に努めていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	*権利擁護の研修会に参加しスタッフへ伝達した上で利用者に必要な制度を提供出来る様に支援している。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	*研修会で学習したことを全スタッフへ伝達し虐待の防止に取り組んでいる。 *言葉の虐待についてもカンファレンスを行い認知症ケアに生かしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	*契約時に利用料金、医療連携体制の説明を行う。 *介護計画の説明、防火訓練の様子を説明し不安の除去に努めている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	*意見箱が設置されているが管理者、計画作成担当者が声をかけ不満等を聞きスタッフ全員で検討し早期解決を図っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	*「花だより」を活用し必要な情報は提供し個別対応を必要とする場合は電話や面会依頼し報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	*管理者や母体のケースワーカーが窓口となり、内容はホーム運営に反映させている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	*毎月1回スタッフミーティングを行い議題を集め解決している。 *日頃よりコミュニケーションを図り個々の考え方や意見を聞いている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	*利用者の状態に合わせて、偏ったサービスがないように人員の配置を調整している。 *帰宅願望の多いユニットでは現在人員を1名増加して対応をしている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	*各ユニットの職員は固定しており馴染みの関係を作る様にしている。 *異動や退職の際も利用者に支障がないように努力している。	○	*異動時期には上司に対し必要最低限にしてもらうよう、利用者への悪影響について訴えている。理事長も理解を示している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	*法人内の勉強会、研修報告会に積極的に参加したり事例発表も行っている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	*定期的に勉強会があり可能な限り参加している。夜間開催が多くボランティア参加でネットワーク作りと相互のサービスの向上に取り組んでいる。 *法人内の勉強会には他施設からの参加も受け入れ、相互のケアの向上に努めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	*管理者及び職員の悩みに耳を傾け適切なアドバイスをしている。休憩室が確保されている。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	*個々の資格取得に向けた支援をしている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23 ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	*サービスについて相談があった時には本人様に直接お会いして話を聴く様にしている。主に管理者が行っているが不在の場合も対応できるスタッフが複数いる。 *申し送りノートに入居待機者の情報を印す。		
24 ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	*家族が求めていることを理解し事業所としての対応が可能か話し合っている。 *体験入居も可能な限り受け付けている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	*相談時には柔軟な対応を行い必要に応じて他のサービス利用の調整を行っている。 *病院のソーシャルワーカーとも常に連携を取っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	*納得され安心して入居できる様、見学を進めている。 *入居当初は家族に度々来て頂き協力を得ている。 *希望があれば体験入居も可能である事を説明している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	*料理、裁縫、畑仕事など入居者から教えていただくよう接している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	*入居者の様子を細かく伝え一緒に本人を支える思いで支援していることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	*家族や本人の思いを見極めながら外出、外泊を進めている。 *本人の日頃の状況や想いを代弁し家族に伝えている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	*家族に協力してもらい外出外泊で近所との関係が切れないようにしている。 *通所リハへ遊びに行き馴染みの人間関係を継続している。 *家族の面会が少ない入居者の方は外出の機会を増やし気分転換を図っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	*仲の良い入居者同士と一緒に過ごせる様配慮したり、口論になる前に間に入ってお互いを支え合うようにしている。 *利用者同士が常に係わり合いが出来るようにその方にあった支援を提供している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	*市内及びスタッフ在住の医療施設等に見舞いに行ったり、市外利用の方へは家族に電話で状況を尋ねたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	*入居者が何を希望されているか身近に触れ合って把握に努めている。また表情言葉などにより把握するようにしている。 *家族に情報をもらい出来る限り本人の意に添うようにしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	*本人や家族より情報を得て好きな環境に努めている。 *生活していく中で少しずつ把握している。 *家族からの情報を十分に聞き取りケアに生かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	*毎日申し送りシートで日々の状態を把握し、ケア会議を通してスタッフ全体で総合的に把握している。 *口頭でも職員間の意見交換は盛んに行われている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	*主治医を交えて2ヶ月に1回サービス担当者会議を実施している。 *ケア会議で職員間の意見を出し合いサービス担当者会議に繋げている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	*入居者の状態変化によりプラン見直しをしている。 *本人、家族の要望に応じてプラン見直しをしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	*個別ファイルに暮らしの様子、言葉、身体的変化を記録している。 *申し送りシートにより情報を共有している。 *言葉での情報交換も盛んに行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	*医療連携体制を活かして入居者の受診、入院時の支援をしている。 *移動式野菜屋さん、売店への買い物、本院へのリハビリ通院を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	*定期的に消防訓練を行い連携がとれている。 *月1回のボランティアの訪問で入居者との交流を図っている。 *近隣の小学校、保育園へ協力依頼をお願いしている。 *近隣の施設同士の交流がある。 *市外からのボランティアも受け入れている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	*本人希望により移動美容院を利用する為の支援を行っている。 *必要時協力病院のケアマネジャーに相談している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	*周辺情報や支援に関する情報交換を行い協力関係を築いている。*合同の研修会があり、積極的に参加している。 *入退居の連絡や、在宅の情報などを得ている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	*定期的に受診したり夜間の急変にも医療施設の協力が得られ安心して生活が送れるよう支援している。 *家族の協力もある。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	*近隣の専門医と連携を深め必要に応じ受診し指示、助言をいただいている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	*常勤の看護師がいて薬の管理、健康管理を行っている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	*協力病院へ入院の際は主治医と家族間の連携を取り、早期退院へ向けて支援している。 *退院後も継続的な治療、健康管理が出来ている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	*容態に変化があったり、悪化した場合に家族や、医療機関と連携を図れる様にしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	*母体が病院でありグループホームでは終末期に向けた取り組みはしていない。 *日々の受診の際主治医と連携を取りながら医療時期を誤らないように支援している。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	*他の事業所へ移られても、介護計画、これまでの支援の情報提供などを行っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	*勉強会参加で職員の意識を見直し入居者の立場に立って物事を考えられるように努力している。 *自尊心を傷つけないように常に意識しながらケアに取り組んでいる。	○ *入居者のプライバシー保護に努めながら、優しい表現力を身に付けられるように努力していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	*一人一人に合わせゆったりとした対応に努めている。 *入居者が決定できる場面を設定している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	*食事の時間以外は決まり事はなく、各自のペースに合った支援を行っている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	*衣類の更衣は本人に任せている。 *月に1回は移動美容院が来るので利用している。 *家族へも依頼し、個々に近隣の美容院へ行っている。 *外出着の助言をしながら一緒に服を選んでいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	*メニューは前もって決まってはいるが、盛りつけ後かたづけを一緒に行っている。 *職員全員が同じ物を食べている。 *料理の下ごしらえを一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	*母体病院の売店でおやつや、ジュースを買うための支援をしている。 *家族にも協力を得て、本人の食べたいものを差し入れてもらっている。 *個々の希望に合わせて職員が大型スーパー等で購入している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	*時間や習慣を把握し個々にトイレ誘導をトイレでの排泄を促している。 *個々の能力に応じたケア用品を使用している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	*入居者の希望に合わせていつでも入浴できるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	*居室の適温を常に考えエアコンの設定表示を守っている。 *日中の活動を多くし家事、散歩で夜間の入眠を促している。 *寝付きが悪い場合は温かい飲み物や会話で安らいでもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	*一人一人が能力を発揮できる様に支援している。 *ほうきを使つての掃き掃除や食事の下ごしらえ、パズル、カルタ、畑仕事、花の水やり等個々の出来る所を支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	*自己管理可能な人が数名いるが、一部は預かり金として職員が管理している。 *小銭程度は持参し病院の売店が開いている時はいつでも買い物に行けるように支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	*直売所(よかところ)に行ったり、近辺にドライブに出かけている。 *地域の商店にも買い物に出かけたりしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	*街の大型商業施設へ買い物に行っている。 *レクリエーションで外出の機会を計画し実施している。(外食・墓参り) *個別対応に心がけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	*個々の能力に応じた支援を行っている。 *電話のダイヤルを押したり、宛名を書いたりの支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	*居室の雰囲気作りに心がけ、常に清潔に保つよう心がけている。 *面会者にはいつも笑顔で対応し、お茶を用意してゆっくり過ごして頂いている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	*身体拘束委員会の定期学習会に積極的に参加をしていて、拘束はしていない。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	*日中は施錠しない。夕方以降は防犯目的で施錠している。 *来訪者へは玄関のセンサーで対応している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	*入居者と同じ空間で記録し、見守りを重視している。 *構造上の問題で転倒のリスクが大きい入居者の居室はのれんを付けプライバシーに配慮している。 *夜間では1時間ごとに見守りを実施していて、センサーマットの利用で安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	*利用者の状況に応じて保管管理が必要な物は鍵をかけている。 *包丁や漂白剤は夜間のみ鍵をかけている。 *洗剤類はドアを閉めて保管している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	*一人一人の状態から予測される危険を検討し事故を未然にふせぐ検討をしている。(Pバーの設置、センサーマット、柵に鈴を付ける、GPS装置など)		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	*マニュアルを作成している。 *蘇生術の研修を母体の医療施設の協力を得て10月より定期的実施している。(年2回 5月 10月)	○	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	*マニュアルを作成している。 *母体の医療施設より応援を求め消防立ち会いで訓練を実施している。*今年度スプリンクラーが設置された。	○	*地区の消防団も視察に来られ、今後の消防活動に組み入れてもらえるようになった。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	*入所時より転倒リスクが高い人には初めに起こりうる事故について説明し、家族に理解してもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	*一人一人の体調を把握しており、変化がみられたときは、看護師へ報告し医療受診の有無を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	*入居者一人一人の薬の情報をファイルし指示薬の変更時は、申し送りノートに記載し共通認識を図っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	*繊維の多い食材を取り入れ便秘予防に努めている。 *便秘薬剤必要時には受診し処方してもらっている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	*毎食後一人一人に声かけしながら口腔ケアを行っている。 *義歯洗浄は毎食後行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	*献立作成の時、利用者の好みを聞きながら、栄養バランスを考え作成している。 *毎食後摂取量をチェックしている。 *月に一回体重測定を行い栄養状態の把握を行っている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	*感染マニュアルを作成している。 *共有場所にはペーパータオルを設置している。 *インフルエンザの予防接種は全員行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	*まな板、ふきんは毎日消毒している。 *冷蔵庫内は毎週月曜日に清掃し、食材の管理も行っている。 *食材は毎日スーパーより配達してもらい鮮度をチェックしている。 *冷凍保存する場合は日付を記入し古いものは処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	*玄関先にプランターの花を置き鑑賞出来るようにしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	*天井までの間仕切りを行い、防音効果が得られた。 *天窓の日差しについてはブラインド設置で改善できている。 *ひな人形、七夕まつり等、季節の行事を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	*テーブルやベンチ、椅子を置き仲の良い入居者同士でくつろげるようスペースを作っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	*部屋には家族の写真が置いてあり、入居時にも本人が使っていた家具を持って来て頂く様に話している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	*空調管理について各部屋にエアコンの設定温度表示があり守られている。 *天気のよい日は窓を開けて換気を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	*入居者に合わせた洗面所の高さであり廊下には手すりが設置されている。 *料理の下ごしらえの作業は食堂テーブルを利用している。	○	*浴室の出入り口が狭く車椅子利用者は出入りが困難である。また浴槽が広すぎて座った場合手すりに届かない。その為浴槽の改善を検討中である。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	*常に自立を促す支援をしている。 *部屋の目印や共有部分の表示をし細やかな声かけをしている。		
87	○建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	*裏庭に農園があり季節度に野菜を植え収穫したものは料理に使っている。 *季節の花を植えている。中庭で日光浴をしたり、お茶を飲んだりしている。	○	*中庭の活用が不十分である。 *車椅子でも移動がスムーズにできるように、段差を解消する為にすのこを置き環境を整えている。 *外気浴を増やしたい。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)